



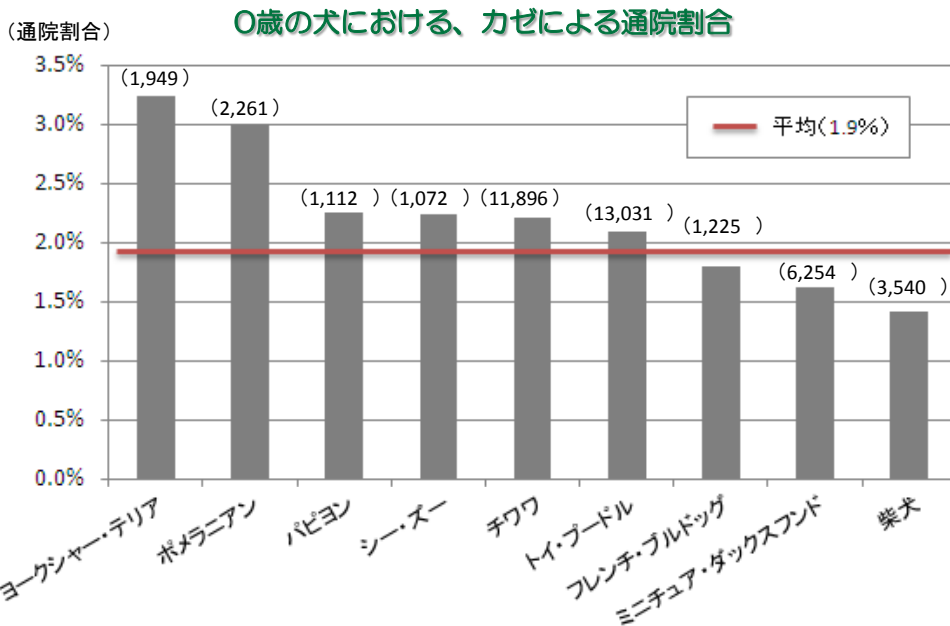
0歳のワンちゃん、カゼをひきやすいのは？

■0歳のワンちゃんにおける、カゼによる通院割合

2010年度（2010/4/1～2011/3/31）にアニコム損保の「どうぶつ健保」契約を開始した0歳の犬59,121頭について、カゼ（感冒・カゼ、ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群で請求があったもの）での通院割合を調査しました。犬種別に比較したところ、ヨークシャー・テリア、ポメラニアンが特に高い通院割合を示すことがわかりました。続いてパピヨン、シー・ズー、チワワなど、小型犬を中心に高い割合を示しました。

ワンちゃんのカゼの主な症状としては、鼻水・発咳のほか、食欲減退、発熱、元気喪失などがあげられます。人と同じく、症状が進行すると肺炎になってしまうこともあります。

免疫機構が発達しきっていない幼少期のワンちゃんは、環境変化によるストレスや、ほかのワンちゃんとの接触により、容易に体調を崩すことがあります。特にお迎え後の過敏な時期は、慣れるまで安静にしてあげる必要があります。日々の様子をよく見てあげて、ちょっとでも様子がおかしいと思ったらすぐに病院に連れて行ってあげましょう。



※人の場合、さまざまなウイルスや細菌感染が原因となり発熱や咳・くしゃみなどの症状が現れる状態をカゼと呼びます。
 一方犬の場合は「ケンネルコフ」という病気があり、いろいろなウイルス・細菌が原因となって人のカゼと同じような症状を引き起こします。
 そのため『犬にはカゼはない』とする見方もありますが、今回のコラムでは便宜的に「カゼ」と表記しています。
 ※請求が合計で20頭以上あった犬種を選択し、通院割合を算出しています。
 ※グラフ中の () 内の数字は、各犬種の0歳の契約頭数を示しています。



**ヨークシャー・テリア、ポメラニアンの
0歳児は、カゼに注意！**

